

2022年度（第9期）第2回八大学工学部長会議/第2回理事会 議事録（案）

日 時：2022年9月16日（金）10:00～11:45

場 所：京王プラザホテル札幌/オンライン（Webex）のハイブリッド

出席者：別紙出席者名簿のとおり

議 題

1. 前回議事録確認
2. 2022年度第1回運営委員会報告
3. 運営委員会第1分科会-博士フォーラム-
4. 運営委員会第2分科会-若手研究者育成-
5. 運営委員会第3分科会-メッセージ発信のためのデータ収集-
6. 2022年度公開シンポジウム / 第3回理事会予定
7. 就職活動実態調査に関する朝日新聞記事
8. ADF (Asian Deans' Forum) Rising Stars Women in Engineering Workshop 2022
9. 2023年（令和5年）春常設会議
10. その他

配付資料

- 資料 1_1 2022年度第1回工学部長会議/理事会議事録（案）
- 資料 2_1 2022年度第1回運営委員会議事録（案）
- 資料 3_1 第1分科会-2022年度博士フォーラム-活動状況
- 資料 4_1 第2分科会-若手研究者育成-活動状況
- 資料 5_1 第3分科会-メッセージ発信のためのデータ収集-活動状況
- 資料 6_1 過去の公開シンポジウム開催状況
- 資料 7_1 就職活動実態調査に関する朝日新聞記事
- 資料 8_1 Rising Stars Women in Engineering Workshop 2022 Program
- 資料 9_1 2023年（令和5年）春常設会議開催案内

開会の辞

井上会長より、2022年度第2回八大学工学部長会議及び第2回理事会の開会宣言があった。

自己紹介

議事に先立ち、出席者及び事務局から自己紹介があった。

議事要旨

1. 前回議事録確認

事務局より、資料 1_1 に基づき、2022 年 4 月 22 日にオンラインで開催した第 1 回八大学工学部長会議議事録の確認が行われた。

2. 2022 年度第 1 回運営委員会報告

事務局より、資料 2_1 に基づき、2022 年 6 月 2 日にオンラインで 2022 年度第 1 回運営委員会を開催し、各分科会の活動について紹介されたことについて報告された。

3. 運営委員会第 1 分科会-博士フォーラム-

京都大学の杉野目先生より、資料 3_1 に基づき今年度の博士フォーラムについて、日程、開催形式、企画内容等の説明があった後、以下のとおり意見交換が行われた。

(○：杉野目先生 ●：出席者)

- タイトル「～博士号取得者をどうしたいのか～」は、学生及び社会の視点により、いろいろな議論があるので興味深い。
- 昨年オンラインで開催された博士フォーラムで発表した学生に聞いたところ、参加人数も多く、他大学の博士学生と情報共有及び交流できたことを非常に喜んでいた。このようなフォーラムは、他大学の異なる分野の博士学生と交流すること自体に意味がある。
- 昨年は博士学生だけではなく、修士及び学部の学生も参加していた。今年も博士学生に限定せず、修士学生やこれから博士に進学しようと考えている学生をプロモートする内容を考えている。これはオンラインの良いところである。
- 海外では博士の存在意義、ポジション、ステータスが日本とは違う。日本の企業に所属し、海外に出向して活躍している博士号取得の若手が、海外ではどのような処遇を受けているかについて、少しコメントするだけでも、修士学生や将来を悩んでいる博士学生をエンカレッジできるのではないか。オンラインでは時差が緩和されると思うので、ご検討いただければと思う。
- GAF A 等で博士号取得者を優先して採用している状況から、情報系の研究室では、博士に進学する優秀な日本人学生が急に増えてきた。その結果、国内の競合企業でも、博士を優先して高い給与で雇用する現象が起きている。日本あるいは海外のグローバル企業のこのような状況が併せて伝わる機会になれば、博士の待遇改善につながっていくと思う。
- とても大事なポイントであるが、ご指摘のあったことを的確に語っていただく人材の人は選は難しい。化学では以前から博士を重視する傾向はあるが、待遇が伴っていない。分野によってかなり違うので、その辺を含めて考えさせていただきたい。
- 化学の分野において、アメリカと日本では博士号取得者は処遇も職務内容も全く違う。海外における博士の状況を調査分析して、日本は博士号取得者をどうしたいのかを投げかけてもよいのではないか。

- 先生方の意見に賛成である。日本の幅広い業種の企業の方々に海外の状況を聞いてもらい、処遇の仕方について根本から考えてもらう機会も必要ではないか。このような内容は多くの学生にも聞かせたいので、オンラインでの開催も希望する。
- オンライン参加を受け入れることは決まっており、その具体的方法を検討中である。
- 大学で開催した博士進学説明会では、7割保護者、3割学生で、学部4年生が多かった。このことから、学部学生も参加できるようにしてはどうか。また、最初のパネルディスカッションだけでもYouTube等で、保護者の方も視聴できるようにしてはどうか。
- 日本企業に博士の処遇を引き上げることを要求する一方で、博士学生が自分の能力を発揮する別のオプションとして、海外で活躍できる場所を提案していくことも重要である。今回、ベンチャーキャピタル等で活躍する若手の博士号取得者が参加を予定していることは興味深い。また、女性の修士学生等にとっては、自分達の将来が見えにくいので、可能であれば各大学に声をかけて、一人ずつでも女性に参加してもらえるとよいと思う。
- 残り3か月で全部の要望に応えることは難しいと思うが、できる限り検討したい。今後は決まり次第、各段階で情報を共有したい。

4. 運営委員会第2分科会-若手研究者育成-

名古屋大学の宮崎先生より、資料4_1に基づき、2022年7月1日に第2分科会第1回分科会を開催し、企業アンケート及び学生アンケートの実施方法等について審議されたことが報告された後、以下のとおり意見交換が行われた。

(○：宮崎先生 ●：出席者)

- 企業アンケートについては、できれば人事に留まらず、他の部署にも回答いただければと思う。
- 前回実施した企業アンケートは、研究上のつながりがある企業数社を選んで、その企業の研究所に依頼した。今回、八大学工学系連合会から企業にアンケートを依頼した場合、人事担当を通して回答が来ると思われる。これは、会社の考え方はよくわかるが、現場の本当の考えはわからない。どのように実施するかバランスが難しい。
- 博士を採用している部署に送付しても人事に転送する場合も考えられることから、人事担当及び博士を採用している部署の代表者の両方に送付してはどうか。1社で2つ回答を得ることができれば、人事と現場の考えの違いがわかってよいかもしれない。
- 博士取得者が就職後にどのようなキャリアを積んでいるか大学は追跡できていない。これまでは同じ会社の研究所で生涯勤め続けるだろうと思っていたが、これからは、想定していない別のキャリアパスを開拓していく必要があり、これまでの研究者になるという考えだけでは無理がある。一方、外資系では経験を積んで能力をアップし、それが認められて転職し、年俵を確実に上げていく。博士で就職した後、どれくらい転職等のキャリアを経て現在に至っているのかについて、今はどこにも調査結果がないので、そのようなことを企業に調べることができれば、新しい道を見いだせるのではないか。

- 企業に対して、どの程度博士に魅力があつて中途採用しているかは聞くことができると思う。また、学生向けのアンケートに転職の経歴を記載してもらえれば、キャリアのフォローになる。
- 企業アンケートと学生アンケートでは、方向性と視点が違うと思う。企業は博士だから何かできる能力があるという見方ではなく、優れた仕事をしている人には博士の割合が多いという見方である。企業が期待している博士の能力は、そのまま伸びるかどうかわからないため、これら2つのアンケートで違う結果がでるのではないか。学生についてはどのようなキャリアを積んでいくかになるので、ボトムアップで追跡していけば何か見えてくると思う。
- DXにより産業界の構造、製品開発の仕方等が変化するので、企業の意識も変わってくる。有名企業やベンチャー企業の博士に対する意識が今後どのように、どのくらいの速度で変わって行くのか知りたい。
- 今年度の学生向けアンケートでは、若手研究者育成によるインセンティブ支援の在り方に加えて、在学中にどのような支援があつたらよかつたかという項目を入れていただきたい。また、留学生・日本人学生、女子学生・男子学生、日系・外資系、社歴等により博士取得者の経験に違いがでてくるので、これらも項目に入れていただきたい。
- アンケートには、年齢、分野、学位の種類も幅広く設定されているのはよい。加えて、なぜ博士の学位を取ろうと思ったのかという動機の部分も大切なので項目に入れてほしい。

5. 運営委員会第3分科会-メッセージ発信のためのデータ収集-

東北大学の伊藤先生より、資料5_1に基づき、第3分科会活動及び予定について報告された後、以下のとおり意見交換が行われた。

(○：伊藤先生 ●出席者)

- 継続的に調査を行うことに価値があり、どのような会社に就職したのか知りたいが、それは大学がどの程度情報を持っているかによる。
- 本当に知りたいことは、業界の博士採用人数の増減、博士と修士の就職傾向の違い等であるが、大学がどのくらい情報を持っているか、どのように質問したらよいか、第3分科会の中では結論がでなかった。継続して検討したい。
- 最近大学も卒業生に対してシステムチックに情報を収集していることもあるので、試行的に調査してみてもいいのではないか。
- 第2分科会と第3分科会はテーマ的にも補完関係があるので、お互いに情報交換していただければと思う。

6. 2022 年度公開シンポジウム / 第 3 回理事会予定

事務局より、資料 6_1 に基づき、過去の公開シンポジウムについて報告があった後、今年度の公開シンポジウムについて以下のとおり意見交換が行われた。

(○：事務局 ●出席者)

- 伝えるテーマが必要である。シンポジウムは、博士フォーラム、各分科会での議論を踏まえた情報発信の場になると思う。
- 毎年開催するとは決まっていないが、シンポジウムでメッセージを発信したい。メッセージ発信の方法として、これまでは各所に提言する活動もしていたが、より広く一般向けに八大学の活動を報告する場にしたい。
- 先ほどの博士フォーラムの検討でも課題としてあったが、博士をどうしたいのかというキーワードについて、海外と日本の企業の状況を比較できるイベントがあったらよい。
- いくつか外資系企業にも参加してもらい、博士をどう活かしているか聞いてみたり、起業等のバラエティに富むキャリアの中で、博士がどのように活かされているのか博士フォーラムで浮かび上がれば、よい情報発信になるかもしれない。
- これまでのフォーラムは分科会の結果を報告するのがメインで、それに関連する講演者をお呼びしていた。開催場所は東京にこだわらないが、文科省あるいは経団連の方をお呼びするには、東京のほうがよい。
- 基本的に継続的に分科会の活動を世の中に発信していくことが重要性なので、開催の方向が望ましい。
- 今後、具体的なテーマは分科会で検討する。
- 開催する場合は 3 月になるので、午前中に理事会を開催したい。改めて日程照会させていただく。

7. 就職活動実態調査に関する朝日新聞記事

事務局より、資料 7_1 に基づき、朝日新聞に就職活動実態調査の結果が掲載されたことについて報告があった。

8. ADF (Asian Deans' Forum) Rising Stars Women in Engineering Workshop 2022

事務局より、資料 8_1 に基づき、ADF (Asian Deans' Forum) Rising Stars Women in Engineering Workshop 2022 について報告があった。

9. 2023 年 (令和 5 年) 春常設会議

井上会長から、資料 9_1 に基づき、2023 年 (令和 5 年) 春常設会議について、4 月 21 日 (金) にハイブリッド形式にて、フクラシア品川クリスタルにて開催することについて報告があった。

10. その他

九州大学の園田先生より、2023 年秋常設会議について、九州大学が当番校となり、9 月 29 日（金）の開催を検討していることについて説明があった。

井上会長より、本日の議論では調査項目も含めて、全般的に博士のバラエティに富んだイグジットの在り方について関心が高かったことから、4 月に示していた活動方針とは少し異なることについて確認があり、了承された。

その他以下のとおり意見交換が行われた

- 博士号を取得して就職した卒業生に会社の現状を聞いてみたところ、博士号の取得が必要な社員には取得させる考えが会社にはあるが、出身大学に戻すことはせず、会社の近くで、できるだけ通学する必要がない大学を選んで博士号を取得させているとのことだった。一方、定員を満たすためにどんな形でも受け入れる大学もあるらしく、それが内部進学を妨げているかもしれない。今後、このようなことについてアンケートできたらと思う。
- アンケートには、社会人博士か、そうではないかの区別はない。社会人博士は「その他から入ってくる人」に含まれる。
- 博士入学の入口、出口の実態については、第 2 分科会の学生へのアンケートに吸収できればよいかもしれない。近年、博士課程入学での進路もばらつきが大きくなっており、イグジットもバラエティに富んでいる。大学はそれなりに博士の人数を維持する苦勞があり、そうした意味で伝統的な博士の入口、出口は各大学が工夫していく中で、どう活かされているか、責任をもって確認していくべきである。

以上をもって、2022 年度第 2 回八大学工学部長会議を閉会することの宣言があった。

以上

八大学工学部長会議出席者名簿

機関名	役職名	氏名	備考
北海道大学工学部	学部長	瀬戸口 剛	
東北大学工学部	学部長	湯上 浩雄	
東京大学工学部	学部長	染谷 隆夫	
東京工業大学工学院	工学院院长	井上 光太郎	
名古屋大学工学部	学部長	宮崎 誠一	
京都大学工学部	学部長	榎木 哲夫	
大阪大学工学部	学部長	桑畑 進	
大阪大学基礎工学部	学部長	和田 成生	
九州大学工学部	学部長	園田 佳巨	

運営委員

機関名	役職名	氏名	備考
東北大学大学院工学研究科	副研究科長	伊藤 彰則	
京都大学大学院工学研究科	副研究科長	杉野目 道紀	

監事

機関名	役職名	氏名	備考
北海道大学大学院工学研究科	副研究科長・評議員	幅崎 浩樹	
東京工業大学学院等事務部	事務部長	平井 陽子	WEB

陪席者

機関名	役職名	氏名	備考
北海道大学工学系事務部	総務課長	原田 由美	
	経理課長	松橋 和哉	
東北大学工学部	事務部長	阿部 昭	WEB
東京大学 工学系・情報理工学系等	事務部長	櫻井 明	WEB
	総務課長	仁藤 彰郎	WEB
東京工業大学学院等事務部	事務部長	平井 陽子	WEB/再掲
	工学院業務推進課長	臼井 秀明	WEB
	工学院業務推進課 工学院運営事務グループ長	小沼 健一郎	
名古屋大学工学部	事務部長	武内 松二	
	総務課長	松原 聖子	WEB
	教務課長	大久保 淳	WEB
京都大学桂地区 (工学研究科)事務部	事務部長	梶村 正治	WEB
	総務課長	野田 航多	WEB
	教務課長	幣 真由美	WEB
大阪大学工学部	事務部長	池本 忠雄	
	総務課長	大谷 裕子	
大阪大学基礎工学部	事務長	多田 浩基	WEB
九州大学工学部等事務部	事務部長	住田 憲紀	
	総務課長	山下 和成	

八大学工学系連合会事務局

機関名	役職名	氏名	備考
八大学工学系連合会	事務局長	横野 泰之	
	事務局員	安尾 千恵子	